

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	19	学校名	揖斐高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した学びを推進する連携型中高一貫教育を行う高校として 地域資源を活用した探究的な学び、視野を広げ自己有用感を高める教育活動を通して 持続可能な活力ある地域社会を形成する創り手や担い手の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	1 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する 2 知・徳・体の調和のとれた人格を養う 3 地域社会に貢献できる人間を育てる	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・学校設定科目「揖斐Basic」と、I C Tの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒
学校の抱える課題	①生徒数の減少を見据えた対応 ②学校環境の整備 ③基礎学力の向上 ④人間関係形成能力の向上 ⑤持続可能な教育活動の展開	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	1. 魅力ある学校づくりの推進 2. 学習環境の整備 3. 勤務環境の改善
	学習指導	1. 確かな学力の育成 2. 授業改善の推進
	生徒指導	1. 心の教育の充実 2. 豊かな人間性の育成
	進路指導	1. 地域社会の担い手の育成 2. キャリア教育の推進

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A, B, C, D	成果と課題	総合 評価 A, B, C, D
学校経営	1. 本校の特性を発信するための中学校への啓発活動の見直し 【例】『学校案内』の作成及び配布方法の検討	20	施策Ⅳ-20	志願者数の推移 エアコン設置の状況 時間外勤務の検証 「エントリーシート」の分析	B	○広告にすることでコンパクトになり、中学生にとっては読みやすいものとなり、好評であった。 ▲費用が大変高額であったので、委託業者及び本校で作成することを検討していきたい。 ▲次年度の学校案内の作成時期を今年度中（3月中）に実施することを検討している。 ▲エアコンが未設置の特別教室が多数あるため、県との協議を引き続き取り組んでいく。 ▲更なる多忙化解消のため、前例踏襲を見直し行事等の精選等に引き続き取り組んでいく。	B
	2. 生徒の体調面での健康と安全を確保するための空調設備の整備 【例】生活デザイン科の使用する専門教室のエアコン設置	20	施策Ⅳ-20				
	3. 教職員の誰もが働きがいを実感できる多忙化解消やハラスメント対策の取組の推進	27	施策Ⅳ-27				
学習指導	1. 中学校段階までにおける基礎・基本に係る学び直しの保障 【例】『揖斐Basic』の活用	8	施策Ⅱ-8	「揖斐Basic」の検証 「授業アンケート」の検証	B	○後半は教科数も増え難易度も上がるが、生徒たちはおおむね前向きに取り組んでいる。 ▲学力とともに学習習慣、学習の仕方を身に付けていくことで学力伸長を目指したい。 ○HRにて時間を取ることで、生徒が授業を振り返りしやすかった。 ▲生徒からの授業評価を教員が真摯に受け止め、前向きに授業改善を行っていきたい。分析から得た課題を校内の職員研修で活用し、スキルアップを図りたい。	B
	2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるI C Tの適切な利活用	9	施策Ⅱ-9				
生徒指導	1. コミュニケーション能力や自己表現力を育成する取組 【例】「演劇ワークショップ」の開催	1	施策Ⅰ-1	「演劇ワークショップ」の検証 各種アンケートの分析	B	○ワークショップを通してクラスの仲間の意外な一面を見て、他者を理解し、クラスの和が深まった。 ○自分を表現するために心を解放することを経験し、積極的な姿が随所に見られるようになった。 ○活動の見通しを持つことで、安心して自己表現できる生徒が増えた。また、生徒同士の距離が縮まり積極的にコミュニケーションをとうと努力する姿が見られた。 ▲他者の表現を受け入れる心の教育と自分を表現するツール(SNS等)への指導、教育が大切だと感じる。 ▲生徒のコミュニケーションツールはスマートフォンが中心なので、ワークショップで身に付けたスキルを状況に応じて生かしてほしい。 ○各種アンケートの実施、学年主任・担任や教育相談担当を中心とした早期対応により、大きなトラブルになることはなかった。問題行動があった際には、全校・学年集会を開き生徒・教員全員が情報共有できた。	B
	2. ルールやマナー、モラルを遵守する意識の向上を図る取組 【例】「情報モラル教室」、「交通安全教室」の開催	19	施策Ⅲ-19				
進路指導	1. 学びと地域貢献とをつなぐ学校外での実習や体験の充実 【例】「デュアル実習」の実施、「地域医療講座」への参加	13	施策Ⅱ-13	就職状況の検証 各種取組の分析	B	○デュアル実習では、実習先から内定をいただいた生徒が5名おり、実習につながることでできた。 ○地域医療講座に参加した生徒で医療系に進学する者も見られた。また1, 2年生の生徒にとっては進路を考える貴重な機会となった。 ○各ガイダンスでは真剣に話を聞く生徒の姿が見られた。複数の学校や企業を比較しながら自分に合った進路先を探すよい機会となった。 ▲2年生の冬季企業見学の参加者が少ない（12名）。早期から進路意識を高めていく必要性を感じている。	B
	2. 生徒一人ひとりのニーズ等に基づいた進学・就職支援の推進 【例】「進路ガイダンス」の充実	13	施策Ⅱ-13				

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年1月9日	学校関係者評価	実施日：令和8年1月16日
【学校経営】 ・生徒の学習環境及び教職員の職場環境の整備、中学校への啓発活動等を推進するため、予算確保のための協議を進めつつ迅速に着手していく。 【学習指導】 ・1年生は「揖斐Basic」による学び直しを継続して取り組み、高校での学びを深めるための基礎学力を身に付けさせる。 ・教科を越えた授業研究会の実施など、工夫ある校内研修を通して、全職員が一丸となって授業改善を推進していく。 【生徒指導】 ・他者との関わりの中で、人の役に立った、人から認められた、人から感謝されたという『自己有用感』を高められるような指導をしていきたい。 【進路指導】 ・デュアル実習やボランティア活動などにおいて、地域との連携・交流を深めるとともに、総合的な探究の時間の内容を充実させ、自分自身を見つめながら進路について考えさせていく。		・揖斐Basicの学び直しは有難い。子供たちが中学校の時はわからなかったが、高校に入ってわかるようになったと言っている。 ・現在はAIが発達するなど便利な世の中になっているので、問題を発見する能力が低下するとともに、学力も低下してきている。様々な活動の中に問題発見の機会を作っていけるといい。 ・地域医療講座は10種ぐらいの職種が体験できる。1年生のうちから体験することが目的である。今後も継続して行って欲しい。 ・授業や生活面について生徒にアンケートを取って改善・対応しているのはいい。今後も継続を。 ・貴重品管理や自転車の盗難など加害者を出さないような仕組みづくりも検討して行ってほしい。	